

E-3 居住環境に関する研究  
—都市近郊農村地域について—

奈良女大家政 ○勘田加津代  
扇田 信  
足達富士夫  
吉原 崇恵

1. 都市近郊農村においては生活様式の都市化にとともに居住環境の整備が急務となっている。農業経営との関連も考えあわせれば単なる「居住環境の都市化」では解決しえない問題点をもっていると思われる。

- 1) 農家世帯の生活基盤・生活型変化の特性
- 2) 今後の地域発展傾向に関する居住者の意見
- 3) 現住地の居住環境に対する居住者の評価

を明らかにし、都市近郊農村における居住環境整備のあり方、考え方を考察する。

2. 京都府相楽郡木津町・精華町の農家世帯を対象とするアンケート調査。

3. 1) 生活基盤・生活型 在宅流出型の賃労働兼業化の進行。新たな住宅地開発の動向も考えあわせると都市通勤者の居住地としても整備される必要がある。

2) 今後の発展傾向 都市近郊の地域として住宅地化も積極的に進めるが、農業もより発展させたいという希望があり、可能性もある。

3) 現住地の評価 とくに都市における居住環境の極悪化に比し自然環境条件には恵まれていること、居住地+農業経営地として当地区の発展を期待していることなどを反映してか現住地に対する満足度は全般に高い。しかし、生活の変容、生活意識の変化にとともに日常生活施設の要求は強い。

以上から、都市近郊農村は「農業経営地+農業従事者居住地+都市通勤者居住地」という性格を具備するものとして整備されねばならないと思われる。